

# お茶新聞

2009年  
冬号

発行元  
亀山市辺法寺町  
811  
市川大楽園製茶

電話  
0595-85-0321  
FAX  
0595-85-3005

## 二年前の農業体験者を訪ねてアメリカへ。

今年の夏、八月二十四日から、長女とアメリカに行きました。以前我が家に来てくれた兄弟を訪ねたのです。その兄弟、アンジェロとテラーはワーファーという旅行しながら農業体験をする制度で二年前に我が家によつてきました。二十歳と十九歳の若者でした。

十一月いよいよ、一月月滞在してました。仕事が終わったら亀山市の保健福祉施設あいあい併設された、日島の湯によく出かけて、まさに裸の付き合いです。

当時小学四年生だった長女は特に仲良くなり、自分でアメリカによく国際電話をかけていました。そして六年生になった長女が彼らの家を訪ねてみたいというのでアメリカに行くことになったのです。

家族みんなで行くこと、チケット代も留守の用意も大変なので、私と二人で行くことになりました。夜十時頃ケネディ空港に着き、迎えに来てくれたアンジェロの「アンジェロ」と呼ぶ声を聞いた時には感激しました。

アメリカのニュージャージー州のオーシヤンシティという街はニューヨークから車で2時間ほど。彼らの家には深夜に着きました。彼らのお母さんは起きて待っていてくれました。年齢は五十才。ソウルシガーのようなハスキーな声でした。やせていますが、アメリカ版「卵玉かあさん」という感じでした。お母さんは特に歓迎してくれて「ビーチに連れて行ってください、夕方は庭でバーベキュー、夜はビーチ沿いの遊園地に連れて行ってください」。

オーシヤンシティは想像以上に大きいリゾート地で人口三千人ほどの町が夏は一万五千人に膨れ上がるのだそうです。そこには3キロにもわたるビーチに2キロ以上のボードウォークと呼ばれる板張りの遊歩道があり、それに沿って食べ物屋や土産物屋、遊園地までありました。ビーチでは長女がボディボードを楽しみました。時差ボケで眠くなることもありましたが彼らの家でゆったり昼寝もできたので、元気に過ごすことができました。食べ物はいかにアメリカと言ったものでした。

朝食はパンケーキやコンフレック、昼食は作り置きしてあるピザを温めて食べる簡単なものです。いつしかり食べるのだからという感じでした。食事の飲み物も、大人でもコーラ、もしくはミネラルウォーターでした。ディナーは日本人のようにお酒を飲んでゆつくりということはなく、会話は楽しむもの、時間内にさつと終わる感じでした。

ニューヨークは二日間とも雨で寒く、バスに乗るためにあわててホテルを出たら、長女はTシャツ一枚の軽装でした。その格好で自由の女神などを見て回り、ほんとに寒い思いをさせてしまいました。途中で服を買ってあげようと言いましたが、本人がお金もつたないと言っていて、買おうとしません。夜になつて、見かねたアンジェロのお母さんが、ニューヨークシティのロコの入ったフード付きのパーカーをいつものまにか買ってくれて、長女に着せてくれました。帰りはアンジェロが空港まで送ってくれました。合計一週間の滞在でしたが、彼らの歓迎もあり長くゆつたりと感じられました。



アンジェロと二年ぶりの再会

## お茶の授業を十一月に小学校でやります。

私は亀山商工会議所の青年部に所属しています。

その中の「総合学習支援」という委員会で小学生に亀山で働く自分たちの仕事の紹介し郷土に愛着を持つてもらおうという企画で、委員長の太田コンクリートの太田秀典さんと学校に足を運び、すでに打ち合わせもすませました。

亀山市内の厚生小学校で十一月一日、亀山西小学校で十一月三日と続けてお茶の淹れ方と手揉み体験を合わせたお茶の授業をすることになりました。

五十人以上の大人数を教えなければなりません。

手揉みの保存会のメンバーは私と同じお茶農家で市内の小野町の駒田六平さんと津市芸濃町の竹尾英之さんです。

彼らも一度に十人までしか、教えたことのないのに、今回は二十人以上を教えなければならず、大変です。

授業時間は一時間半なのですが、手揉み茶の完成のために、午後三時まで、揉んでいく予定です。

完成した手揉みのお茶は子供たちに持って帰ってもらって、飲んでもらいます。あとは私の教える内容次第なのですが、仕事に追われ、考える時間がないので、早く内容をまとめないといけないこととあせっています。